〔活動報告〕

カルガリー大学看護学部家族看護ユニット エクスターンシップ2000参加報告

河原　宣子　　森下　利子　　川出富貴子

はじめに

カルガリー大学看護学部家族看護ユニットエクスターンシップ2000が2000年5月1日（月）～5日（金）にカナダのカルガリー大学で開催された．5日間という短期間ではあったが，非常に内容の濃いエクスターンシップで，世界各国から参加した48名の仲間と共に大変有意義な時間を過ごし，多くの興味深い学びを得た．その概要と内容の一部を報告する．

カルガリー大学看護学部家族看護ユニット[1)]

カルガリー大学看護学部家族看護ユニット（以下，ユニット）は1982年にLorraine M. Wright博士を中心に設立され，家族看護に関する教育，研究を実施している．このユニットは，教育・研究活動と共に看護実践活動も実施しているという特徴を持つ．この特徴には，「看護介入方法への指南となりうる研究活動が重要である」というWright博士らの思いが端的に表されていると考える．そのため，ユニットにはマジックミラーを備え付けた面接室，観察室が複数あり，実際に臨床現場等から紹介を受けた家族がこのユニットを訪れ，ユニットの教員や学生らで組織された臨床チームにケアを受けている．

なお，ユニットの詳細な紹介はホームページに掲載されているのでご参照されたい[2)]．

三重県立看護大学看護学部

カルガリー大学看護学部家族看護ユニット エクスターンシップ2000の概要

カルガリー大学看護学部家族看護ユニットエクスターンシップ2000（以下，エクスターンシップ）は，Beliefs, Families and Illness : A Model for Clinical Practiceをテーマに5日間開催された．講師はLorraine M. Wright博士とJanice M. Bell博士である．また，日本語同時通訳者としてカナダ在住の鈴木富美子氏に関わっていただいた．

エクスターンシップには，カナダ，アメリカ，スウェーデン，イングランド，ポルトガル，そして日本から48名の参加があった．日本からは22名が参加した．48名の参加者全員が看護関係の職業に就いており，職場の内訳は図1に示すとおりである．

エクスターンシップのプログラムを表1に示した．プログラムは，豊富な事例を用いた理論と介入方法の講義，さらに実際に家族インタビューを生中継で見学するという充実した内容であった．また，参加者からも活発な質問，意見が飛び交い，ディスカッションしながら講義が進行した．そのため，異文化や医

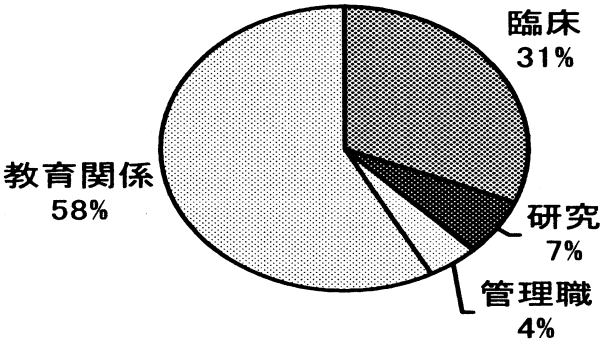

図1．エクスターンシップ参加者の職場内訳

療・看護に対する考え方，価値観等，様々な国民性にふれる機会が持て，大変興味深かった．

Beliefs「ものの見方」とTherapeutic Conversations「癒しに役立つ会話」

カルガリー家族看護モデルの背景にある理論及びモデルを表2に示した．

今回のエクスターンシップでは，特に『Illness Beliefs Model（IBM）（病への「ものの見方」モデル）』と『Therapeutic Conversations「癒しに役立つ会話」』に関して多くの時間を割いて講義があった．Beliefs「ものの見方」は「主観で真理だと思うこと．人の生物的，霊的機能に影響する（Wright, Watson, & Bell, 1996）」と定義されている．カルガリー家族看護モデルでは，病を抱える家族のBeliefs「ものの見方」を探り，変化（拘束的なBeliefs「ものの見方」を前向きなBeliefs「ものの見方」へ変えること）へと導く介入を強調して述べている．そのための介入方法がTherapeutic Conversations「癒しに役立つ会話」である．Calgary Family Intervention Model（CFIM）（カルガリー家族介入モデル）における「15 minute Interview（15分インタビュー）」の方法と内容はあまりにも有名である（今回の報告では詳細は省略する．文献3）を参考にされたい．）が，Therapeutic Conversations「癒しに役立つ会話」（表3に15分インタビューのための癒しに役立つ会話を示した）はその根幹を成すものである．“家族に対して最大の関心を寄せる”，“家族の強さを引き出す”，“家族の強さを褒める”，“家族のBeliefs「ものの見方」を認める余裕を持つ”，“家族

表1． カルガリー大学看護学部家族看護ユニットエクスターンシップ2000

5月1日(月)	5月2日(火)	5月3日(水)	5月4日(木)	5月5日(金)
9：00 登録，歓迎，紹介，オリエンテーション 10：00 家族看護ユニットの説明 11：30 家族看護ユニット施設見学	11：00—13：30 癒しに役立つ会話Ⅱ ・病に対するBeliefsモデル ・病や家族に対するBeliefs	9：00—10：30 ・病に対するBeliefsモデル ・巨視的手法 ・Beliefsを変える背景をつくる ・病に対するBeliefsを見つける	9：00—12：00 ・病に対するBeliefsモデル ・巨視的手法：マイナスのBeliefsを変える ・褒める ・プラスの質問 ・手紙 ・考察チーム	・病に対するBeliefsモデル ・巨視的手法 ・変化を認める ・プラスのBeliefsを見つける，支援する，習慣づける
13：00—16：30 癒しに役立つ会話Ⅰ ・カルガリー家族アセスメントモデル ・カルガリー家族介入モデル ・15分インタビュー	14：30—15：45 家族インタビュー（生中継）の説明 16：00—18：00 家族インタビュー（生中継） 18：00—19：00 家族インタビュー（生中継）後の討論	18：00—20：30 ・病に対するBeliefsモデル ・Beliefsを変える ・臨床担当者のBeliefs	13：00—16：00 ・病に対するBeliefsモデル ・巨視的手法：マイナスのBeliefsを変える 17：00—22：30 Boundary牧場で夕食	13：00—15：00 記念写真 まとめ 実践，研究，教育について エクスターンシップの評価 お別れ

表2． Theories/Models that Inform Our Practice with Families（家族を扱うための理論／モデル）（Wright & Bell, 2000）

World Views（世界観） ● Post-modernism（ポスト・モダニズム）
Grand Theories（基礎理論） ● Systems theory（システム理論） ● Communication theory（コミュニケーション理論） ● Cybernetic theory（サイバネティック理論）
Mid-Range Theories（応用理論） ● Family nursing theory（家族看護理論） ● Family development theory（家族発達理論） ● Theories appropriate to clinical population（臨床対象に使われるその他の理論）
Clinical Practice Models（臨床に使うモデル） ● Calgary Family Assessment Model（CFAM）（カルガリー家族アセスメントモデル） ● Calgary Family Intervention Model（CFIM）（カルガリー家族介入モデル） ● Illness Beliefs Model（IBM）（病への「ものの見方」モデル）

表3． 15分インタビューのための「癒しに役立つ会話」(Wright & Bell, 2000)

- **インタビューから得た知識を誰に話してよいですか？**誰に話してはいけませんか？(この質問により，仲良くしている人，頼れる人，敵対関係にある人などがわかる)
- **あなたの入院中どんな援助(本人，家族，友人に対して)ができますか？**(臨床チームへの期待や今後の良い協力関係を築く)
- **過去の入院中，通院中何が最も助けになりましたか／なりませんでしたか？**(過去の良い経験を知り，間違いを繰り返さない)
- **何が今，最も問題ですか？**(現実の／あり得る　苦しみ，役割，「ものの見方」を知る)
- **家族の中で一番苦しんでいるのは誰ですか？**(どの家族構成員にもっとも支援が必要かわかる)
- **今「一つだけ許される質問」があるとすれば，それは何ですか？**(最も気になっていることが何であるかわかる)
- **私が最も有用だったところは何でしたか？改良の余地があるところはどこでしょうか？**(担当者が家族から学びたいと思っていることを知らせる．共同で仕事をしたいと願っていることを知らせる)

表4． エクスターンシップ講義内容についての意見(参加者のアンケート結果より)

- 充実しており大変満足．特にインタビューの生中継はカルガリーに来なければ体験できないもので，同じ時間を共有でき，あとの講義内容が理解しやすくなった．
- ビデオでの学習は効果的であった．生中継での実践はとてもわかりやすく勉強になった．講義内容は具体的に説明があり理解の助けになったのでよかった．
- 第3版の家族看護および「ものの見方」について翻訳されていない部分が直接学べた．また，本を読んで実践してみても細かい部分まで分からないことが直接ビデオ生中継などによって理解できた．
- 外国の方々の活発な講義中の発言は驚きだった．参加型授業というものを体験できた．
- 「ものの見方」など，臨床のナース，PHNに必要なことが多い講義内容だった．臨床において，すぐに使えることが多く刺激になった．資料にそっての講義だったので，ノートを多くとることなく“先生の話を聞くこと”を中心に受けることができ，とても分かりやすかった．
- 講義は資料の他にOHPを使用，具体的であった．
- 理論とモデルの説明から実際へと進められ理解が容易になった．
- 対訳つきの資料に大変感謝．
- 講義の節目で意見交換があり，整理していくのに良かった．

が自分たちのBeliefs「ものの見方」を振り返り分析する状況に導く”等々，多くの興味深い看護介入方法を学んだ．『会話』は大変重要な看護介入方法の一つであるが，あまりにも日常的であるがために軽視されている場合もある．“特別な時間や場所はいらない．ケアの最中でもいい．ナースがただ一言，患者の傍らにいる家族を気にかけ，声をかけることでどれだけ家族が癒されるか！”と講義中に話されたWright博士の言葉が耳に残っている．

エクスターンシップに参加して（エクスターンシップ参加者アンケート結果より）

エクスターンシップ終了後，日本からの参加者，22名の皆様にアンケートにご協力いただいた．疲労困憊されていたであろう，帰路の飛行機でお答えいただいたにもかかわらず，多くの貴重なご意見をいただいた．今回は講義内容についての意見をご紹介する（表4）．重なる部分は略したが，できるだけ参加者の言葉をそのまま掲載した．講義内容について不満だったという回答は全くなかったこと，また，「同時通訳の鈴木氏に大変感謝する」という回答が全ての参加者の意見に述べられていたことを，ぜひ付け加えたい．

Intervention「介入」—実践から理論へ，理論から実践へ

今回のエクスターンシップで大変興味を抱いた点は，カルガリー家族看護モデルの成り立ちである．長期間にわたる看護実践活動を通して積み上げられ蓄積された膨大なデータを分析し，理論体系へとつなげていくという看護研究のあり方に共感を覚えた．“ただの研究ならばクライアントから自分自身が学ぶだけでいい．しかし私たちはナースとして，苦しみ悩む家族を支援する役割と責任がある．私たちは介入に有効なモデルを考え続けてきたのだ．”とエクスターンシップの講義中に述べられたWright博士の

エクスターンシップ講義前のひととき

Boundary Ranch にて

言葉が強く印象に残っている．特に，2日目の家族インタビュー（生中継）においては，実際にカルガリー家族看護モデルを用いて，介入している場面を目の当たりにでき，実践と理論が見事に結びついたその介入方法に感動すら覚えた．同時に「介入とは家族とナースの相互作用である」[1]と述べられた言葉そのままが実際のインタビューに現れており，実践で得られたデータを緻密に丁寧に検討した結果のモデルなのだと実感できた体験であった．

おわりに

Angel City と呼ばれるカルガリーで過ごした日々は，大変刺激的であり，充実していたと共に，自分自身の Beliefs「ものの見方」を振り返り，見つめ直す機会にもなったと思う．Lorraine M. Wright 博士，Janice M. Bell 博士をはじめとするカルガリー家族看護ユニットの方々，通訳・翻訳をしていただいた鈴木富美子氏，そしてエクスターンシップに参加した全ての方々，日本からのツアーにご尽力いただいた旅行会社等の皆様に心から感謝したい．

文　献　等

1) Lorraine M. Wright, Janice M. Bell : The Future of Family Nursing Research : Interventions, Interventions, Interventions, 看護研究，（27）：2—3, 1994
2) http : //www.ucalgary.ca/NU/fnu/index.html
3) Wright, L.M., & Leahey, M.（2000）：Nurses and families. A guide to family assessment and intervention（3rd ed.）. Philadelphia : F. A. Davis

来る2000年8月29日（火）～31日（木）に東京大学において Lorraine M. Wright 博士，Janice M. Bell 博士を招いて第3回家族看護ワークショップ　カルガリー家族看護モデル—実践編—が家族看護研究会（杉下知子代表）主催で開催される．さらに喜ばしいことに，9月2日（土）～3日（日）においては三重県鈴鹿市で本学会第7回学術集会が開催され，Lorraine M. Wright 博士の特別講演（テーマ：「Family Nursing Interventions : The Way to Reduce and Alleviate Suffering」）を予定している．ぜひ，会員の皆様にご参加していただきたく，この場をお借りしてお願い申し上げます．

【お問い合わせ先】

● 第3回家族看護ワークショップ　カルガリー家族看護モデル—実践編—

（株）テス　「第3回家族看護ワークショップ」係

〒113-0033　東京都文京区本郷3—29—6—4 F

FAX : 03-3812-8293　TEL : 03-3812-8705

● 日本家族看護学会　第7回学術集会（会長　三重県立看護大学：前原澄子）

事務局　〒514-0116　三重県津市夢が丘1—1—1　三重県立看護大学内

Tel & Fax 059-233-5629（河原．なお，不在の場合は059-233-5605までご連絡ください．）

e-mail : noriko. kawahara@mcn. ac. jp（河原宣子）